1B03 8681

レンジフード 取付説明書

※裏面は型紙（原寸大）になっておりますので
あわせてご利用ください。

取扱説明書・取付説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

安全上のご注意

- 取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けをおこなってください。
- ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠警 告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

⚠注 意：人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

⃠ 記号は行為を禁止する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

⚠警 告

分解・修理・改造禁止
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

使用禁止
- 交流100V以外では使用しないこと
  火災・感電の原因になります

埋込禁止
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
  漏電した場合、発火するおそれがあります

取付注意
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります

取付注意
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります

取付注意
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

取付注意
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

取付注意
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火するおそれがあります

アースを取り付ける
- アースを確実に取り付けること
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください

取付注意
- 自然排気型のストーブを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
  排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります

⚠注 意

使用禁止
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
  感電および故障の原因になります

取付禁止
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
  火災・故障の原因になります

接触禁止
- 運転中は、指や物を絶対に入れないこと
  けがをするおそれがあります

手袋をする
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

取付注意
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります

取付注意
- 部品の取り付けは確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります

取り付け上のお願い

- **下記は「建設工事」に区分され、関連する法令、規定に従って法的有資格者がおこなう必要があります。**
  - **大工工事【設置のための下地工事等】**
  - **配線工事【コンセントの設置、コンセント・コネクター利用以外の配線接続等】**
  - **管工事【ダクト配管およびレンジフードからのダクト接続等】**

  流通業者（販売店）を通して組立・設置する場合は、「建設工事」とそれ以外の「組立・設置」を区別しておこなってください。
- ダクトの不燃処理について
  - ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
  - 施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」・「検査要領書」に従ってください。
- 調理機器の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。
  調理機器はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。
- 屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は400m^3/h時50Pa以下のものをご使用ください。
  防虫網付きのものは目詰まりして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。
- 非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。
- レンジフードは調理機器の真上に取り付けてください。
  なお、レンジフード取付高さは、レンジフードの下端が調理機器の真上80cm以上になるようにしてください。（80cm以上）
- ダクトは必ず屋外側に向けて下り勾配を設けてください（目安：1/100～1/50程度）。雨水の浸入や結露水の逆流の原因になります。
- レンジフード取付面の補強部に、取付用座付ねじが確実に届くことを確認してください。本体の取付用座付ねじは45mmの長さのものが同梱されておりますが、壁下地に石膏ボード等が貼られている場合は、石膏ボード等の厚さを確認し、取付用座付ねじが確実に補強部に届くことを確認してください。
  また、レンジフード本体取付面には必ず不燃材を使用してください。
- レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。また、横方向50cm以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因になります。（50cm以上）
- 製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。
- 部屋の中央で調理される場合は油煙が捕集しきれませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
- 建物が密閉されている場合は必ず、約400cm^2程度の空気取入口を設けてください。
- 寒い地域ではダクトが結露し、レンジフード内に結露水が流れる場合がありますので断熱材を巻くなどの対応をしてください。
- 同時給排モデルのレンジフードをお使いの場合でも、建物の気密性によって給気が必要となる場合があります。その場合は別途空気取入口を設けてください。

取り付け前の調査と準備

⚠警 告

分解・修理・改造禁止
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

埋込禁止
- レンジフードの壁への埋め込みはしないこと
  漏電した場合、発火するおそれがあります

取付注意
- 排気工事をされる場合は建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります

取付注意
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

取付注意
- レンジフードは、薄板の金属部（壁内ラス網など）と接触しないよう取り付けること
  漏電した場合、発火するおそれがあります

⚠注 意

取付禁止
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
  火災・故障の原因になります

手袋をする
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

取付注意
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります

1 取付面の強度確認

製品を支える強さが必要です。

製品質量	36kg

■板張りの場合（取付面は必ず不燃処理をおこなってください）
- 板厚が20mm未満の場合には壁に補強板を埋め込み、補強板にレンジフードを取り付けてください。
- 板厚が20mm以上の場合は補強板の必要はありません。

■コンクリート、タイル壁の場合
- あらかじめ補強板を壁に埋め込んでおくか、カールプラグ等を使用し固定してください。

■土壁の場合
- 柱などに固定した補強板をあらかじめ壁に埋め込んでください。

2 別売部品の準備

排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。

3 標準取付寸法

本製品の標準取付寸法は、調理機器の上面からレンジフードの下端まで80cmです。
※火災予防条例では、グリスフィルターの下端が調理機器の真上80cm以上必要となっています。

不燃材
レンジフード
標準80cm
調理機器

4 電源コンセント・ブレーカー

電源コンセント・ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相100V）
コンセントは、JIS C 8303 2極差込接続器15A 125Vをご使用ください。

各部のなまえ

製品寸法図

付属品

座付ねじ（φ5.1×45）10本
本体、本体取付桟およびダクトカバー吊り金具の取り付けに使います。

化粧ねじ（M4×8）2本
ダクトカバー内側スライド部の固定に使います。

トラスねじ（M4×10）2本
ダクトカバーの取り付けに使います。

給気口（電動シャッター付）1個
本体と給気ダクトの接続に使います。（3Pコネクター）

排気口（電動シャッター付）1個
本体と排気ダクトの接続に使います。（2Pコネクター）

ソフトテープ 2本
給気口および排気口とダクトとのすきまをふさぐのに使います。

ワイヤークランプ 1個
配線の結束に使います。

本体取付桟 1個
本体の取り付けに使います。

ダクトカバー 1個
ダクト取付部をカバーします。

ダクトカバー吊り金具 2個
ダクトカバーの取り付けに使います。

取り付けかた

1. 付属品の確認

⚠注 意

手袋をする
- 取り扱いの際は、必ず厚手の手袋をすること
  鋼板の切り口や角でけがをするおそれがあります

付属品を確認します。

梱包箱からダクトカバー、排気口、給気口、ねじ等の付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認してください。

お願い
- 保護用のクッション材と固定用テープはキズ、破損防止のため、「7. ダクトカバーの取り付け」まではずさないでください。（図1－1）
- 床で作業する場合、本体および床にキズを付けないため、必ずシートを敷いた上で作業をおこなってください。
- 取付作業の際はキズ・破損のないように十分注意してください。

図1－1

2. 給気・排気方向の決定

⚠警 告

取付注意
- 排気工事をされる場合は、建築基準法（同施行令）および消防法などの関連法規に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  火災などの原因になります

取付注意
- メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないように取り付けること
  漏電した場合、発火したり感電するおそれがあります

取付注意
- レンジフードと排気ダクト等は、可燃物との間を10cm以上離すか、不燃材料を使用して可燃物を覆うこと
  火災などの原因になります
  詳しくは所轄の消防署に問い合わせてください

⚠注 意

使用禁止
- 浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
  感電および故障の原因になります

取付禁止
- 周囲温度が40℃以上になるところには取り付けないこと
  火災・故障の原因になります

1 製品寸法図を参照し、事前に管工事業者（法的有資格者）へ壁穴の開口を依頼してください。

また、コンセントの位置を確認してください。
（「6. 電気配線」図6－1、6－2参照）

2 φ150のステンレスダクト、またはスパイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットして、周囲を仕上げます。（コンクリート、タイル、土壁の場合）（図2－1）

図2－1

3. 給気・排気用部品の準備

1 「1. 付属品の確認」の項で取り出した給気口および排気口を用意します。

お願い
手動でシャッターを開閉すると故障の原因になりますのでおやめください。

図3－1

■ 上方給気・排気の場合

1）給気口および排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。（図3－1）

2）本体の給気口・排気口取付位置についているなべねじ各2本をはずした後、はずしたなべねじで給気口および排気口を取り付けます。（図3－2）
※排気口取付位置近傍のねじは取りはずさないでください。

お願い
付属品の給気口・排気口にはそれぞれ「給気用」「排気用」の刻印があり、本体排気口部には「ハイキ」の刻印があります。
取り付けの際は両方をよく確認の上、取付口を間違えないようご注意ください。

図3－2

3）給気口および排気口に本体からの信号線を接続します。（図3－3）
※信号線の接続は正しくおこなってください。

図3－3

お願い
- コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。
- 給気口・排気口の取付位置が間違っている場合、配線が届かないことがあります。給気口・排気口を取り付け直してください。

コネクターを挿入する場合：奥まで挿入して突き当てる／奥まで／前後に動かしても抜けないこと
正しい差し込み方　誤った差し込み方

4）余った配線は、付属品のワイヤークランプで結束します。（図3－4）

図3－4
ワイヤークランプ

■ 後方給気・排気の場合（別売のL形ダクトを使用する場合）

※ 後方排気の場合は別売のL形ダクトが必要です。

1）給気口および排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。

2）L形ダクトに付属の取付ねじ4本でモーターカバーが上側になるようにして取り付けます。（図3－5）

※ 本体への取り付けは、本体の取り付け後におこないます。（「5. ダクトと給気・排気用部品の接続」参照）

図3－5

4. 本体の取り付け

⚠注 意

取付注意
- レンジフードの取り付けは、十分強度のあるところを選んで確実におこなうこと
  落下により、けがをするおそれがあります

取付注意
- 部品の取り付けは確実におこなうこと
  落下によりけがをするおそれがあります

お願い
- レンジフードの前後および左右方向の水平を確実にだしてください。水平に設置されていないと、本体内部の汚れ（油）が各部のすきまから調理面に滴下することがあります。
- キッチンパネルの上端部をレンジフード下部壁面に入れ込んで設置する場合、レンジフードと壁面のすきまに挟み込む部材は不燃性のものを使用してください。可燃物を使用した場合、火災の原因になるおそれがあります。

1 だるま穴用座付ねじをねじ込みます。（図4－1）
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、だるま穴位置（左右各1ヶ所）に付属品の座付ねじ（φ5.1×45）を壁面とのすきま5mmまで締め付けます。

2 本体取付桟を取り付けます。（図4－1）
製品寸法図と裏面の型紙を参照し、本体取付桟の取付位置に付属品の座付ねじ（φ5.1×45）2本で本体取付桟を固定します。

図4－1

3 本体を引っ掛けます。（図4－2）
本体のだるま穴を座付ねじに引っ掛けながら（①）、本体背面の溝を本体取付桟に引っ掛けます（②）。

お願い
上方排気の場合は、ダクトに給気・排気口を差し込みながら本体を取り付けてください。

図4－2

4 本体を固定します。（図4－3）
1）だるま穴下のφ9穴（左右各1ヶ所）に付属品の座付ねじ（φ5.1×45）をしっかりと締め付けます（①）。
2）だるま穴の座付ねじ（φ5.1×45）をしっかりと締め付けます（②）。

図4－3

5. ダクトと給気・排気用部品の接続

お願い
ドリリングタッピンねじなどで給気口・排気口を固定する場合は、シャッターにねじがあたらないように図を参照してドリリングタッピンねじ使用範囲以内に固定してください。（図5－1）

図5－1

■ 上方給気・排気の場合

ダクトと給気口・排気口の接続部に風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図5－2）

図5－2

■ 後方給気・排気の場合（別売のL形ダクトを使用する場合）

1 給気口・排気口を取り付けます。（図5－3）
本体の給気口・排気口取付位置についているなべねじ各2本をはずした後、L形ダクトを本体上部の差込部に差し込みながら、給気口・排気口をダクトに挿入し、はずしたなべねじ2本で取り付けます。
※排気口取付位置近傍のねじは取りはずさないでください。

2 風漏れ防止のテーピング（アルミテープ）をおこないます。（図5－3）

3 信号線を接続します。（図5－4）
1）給気口および排気口に本体からの信号線を接続します。
※信号線の接続は正しくおこなってください。
2）余った配線は付属品のワイヤークランプで配線を結束します。

お願い
- コネクターを挿入する際は、ツメの向きを合わせて確実にロックしてください。接続が不十分な場合、レンジフードが動作しない、発熱による故障などの原因になります。
- 給気口・排気口の取付位置が間違っている場合、配線が届かないことがあります。給気口・排気口を取り付け直してください。

■ 給気口・排気口設置面の漏風確認のお願い（図5－5）
給気口・排気口とダクトを接続する際に、無理にダクトに接続しようとすると、設置面（製品天面等）が変形し、風漏れが発生してしまう場合があります。
風漏れ確認のために、ダクトと接続後は試運転（強運転）をおこなってください。漏風する場合は、給気口・排気口と設置面の周りをアルミテープ等（現場調達品）で漏風防止処置をおこなってください。

図5－5

6. 電気配線

⚠警 告

分解・修理・改造禁止
- 修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
  発火・感電したり、異常動作してけがをするおそれがあります

使用禁止
- 交流100V以外では使用しないこと
  火災・感電の原因になります

取付注意
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って法的有資格者が工事をおこなうこと
  誤った配線工事は感電や火災の原因になります

アースを取り付ける
- アースを確実に取り付けること
  故障や漏電のときに感電するおそれがあります
  アースの取り付けは販売店にご相談ください

1）アース（D種接地工事）を取ります。

2）分電盤のブレーカーを「切」にし、電源プラグをコンセントに差し込みます。

お願い
- 電源は専用のコンセント（2極差込接続器15A、125V）およびブレーカーを設けてください。
- 「8. 試運転」までブレーカーは「入」にしないでください。
- コンセントは電源コードの長さ、および下図に記載の条件を考慮し、設置してください。

7. ダクトカバーの取り付け

1 取付位置を確認します。（図7－1）
製品寸法図を参照し、ダクトカバー吊り金具の取付位置を確認します。

図7－1

2 ダクトカバー吊り金具を取り付けます。（図7－2）
ダクトカバー吊り金具を図のように付属品の座付ねじ（φ5.1×45）4本で取り付けます。
※レンジフードのセンターに合わせて注意しながら取り付けてください。

図7－2

3 ダクトカバーを取り付けます。（図7－3）
ダクトカバーを壁際まで持っていき、本体の引掛けねじにダクトカバーの切り欠きを入れるようにスライドさせながら、ダクトカバー正面下端の飛び出し部をフードの溝に入れ、奥にスライドさせながら、はめ込みます。

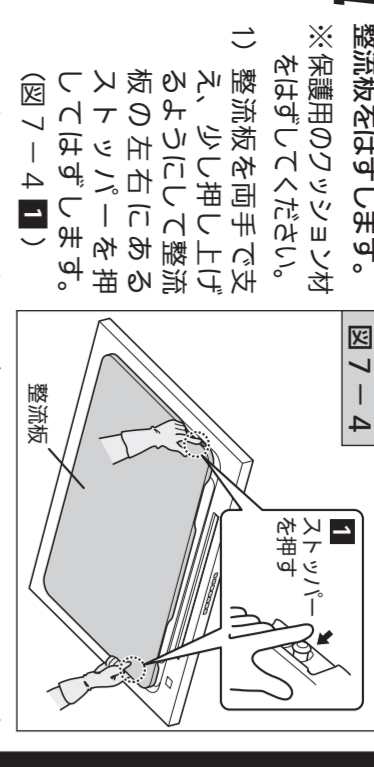
お願い
ダクトカバーを取り付ける際、ダクトカバー下端の飛び出し部でフードの天板を傷つけないように十分注意してください。

図7－3

取り付けかたは裏面に続きます。

1B03 8681

こちら側は裏面です。必ず表面からお読みになり、正しく取り付けをおこなってください。安全上のご注意・取り付け前の調査と準備・取り付け上のお願いは表面をご覧ください。

取り付けかた（つづき）

4 整流板をはずします。

※保護用のクッション材をはずしてください。

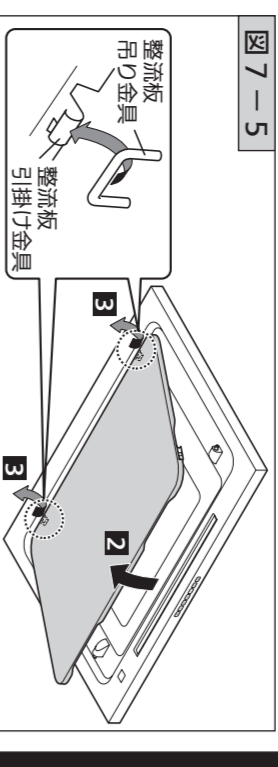
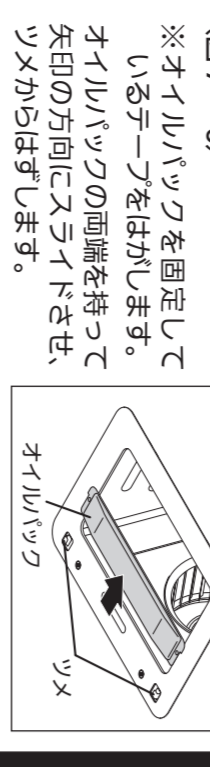
1）整流板を両手で支え、少し押し上げるようにして整流板の左右にあるストッパーを押してはずします。（図７－４ 1 ）

2）整流板を両手で支えながら、下へゆっくりおろします（図７－５ 2 ）。

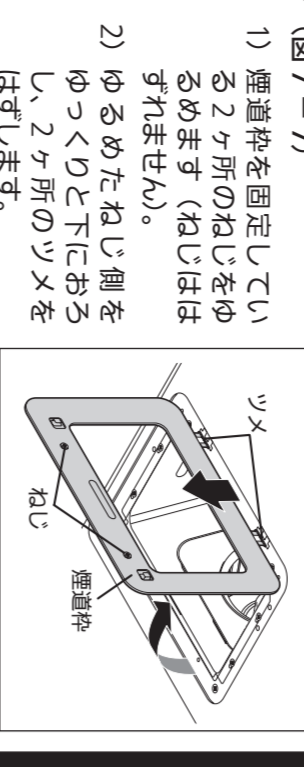
3）整流板の後ろを持ち上げ、整流板吊り金具から整流板引掛け金具をはずします。（図７－５ 3 ）

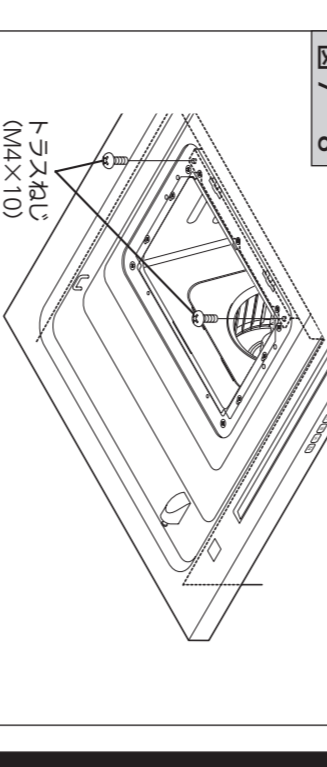
※必ず左右同時にはずしてください。金具の変形の原因になります。

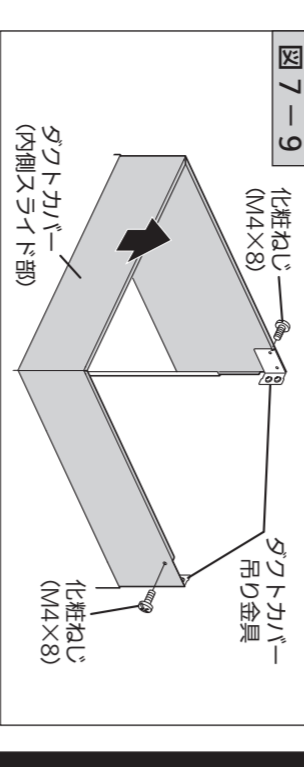
5 オイルパックをはずします。（図７－６）

※オイルパックを固定しているテープをはがします。

オイルパックの両端を持って矢印の方向にスライドさせ、ツメからはずします。

6 煙道枠をはずします。（図７－７）

1）煙道枠を固定している２ヶ所のねじをゆるめます（ねじははずれません）。

2）ゆるめたねじ側をゆっくりと下におろし、２ヶ所のツメをはずします。

7 ダクトカバーを固定します。

1）フードの溝に入れたダクトカバー前側下端飛び出し部を付属品のトラスねじ（M4 × 10）２本でフード下から固定します。（図７－８）

2）ダクトカバーの内側スライド部を天井まで引き上げ、付属品の化粧ねじ（M4 × 8）２本でダクトカバー吊り金具に固定します。（図７－９）

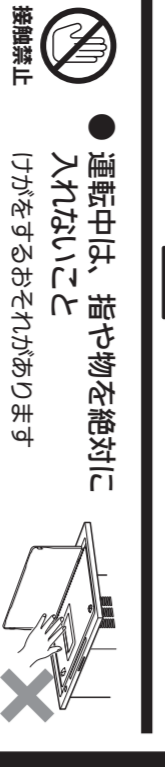
8 煙道枠、オイルパック、整流板を取り付けます。

煙道枠、オイルパック、および整流板を、取りはずしたときと逆の手順で取り付けます。

8. 試運転

⚠注 意

接触禁止

● 運転中は、指や物を絶対に入れないこと

けがをするおそれがあります

- ■ 分電盤のブレーカーを「入」にし、スイッチを操作して運転状態を確認してください。
  スイッチの操作と運転状態については取扱説明書をご覧ください。
- ■ 最終設置した状態で試運転してください。
- ■ 運転時、各速調の排気が正しくおこなわれていることを確認してください。
- ■ 異音や振動がないことを確認してください。
- ■ 屋外の排気出口から排気され、異音がないことを確認してください。
- ■ 取り付けまたは各種工事にて発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。
- ■ 製品保護のため、はずした保護用のクッション材をもとの状態に取り付けてください。

9. お客様への説明

- ■ 取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。
- ■ 取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様にお渡しください。

[製造元] 富士工業株式会社
本社・営業部 〒252-0206
相模原市中央区淵野辺２丁目１－９
TEL 042(768)3754（営業部）